

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492800048	事業の開始年月日	H19年10月1日	
		指定年月日	H19年10月1日	
法人名	株式会社サンフォーレ			
事業所名	街角の家秦野			
所在地	( 〒259-1306 ) 神奈川県秦野市戸川130-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成23年1月27日	評価結果 市町村受理日	平成23年3月17日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、その人らしさの追求、心の満足といういつくしみの介護技術で、積極的にレクリエーション活動（コーラス・ゲーム・頭と身体を使う体操）を行うなど常に利用者本人の個性を尊重し、生きる喜びの実現を目指して支援しています。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成23年2月18日	評価機関 評価決定日	平成23年3月9日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

≪事業所の優れている点≫  
 ◇サービス方針である「(いつくしみの思草)①生命は平等に与えられるが生き方は人それぞれ多様であることを理解し、②自分らしく生きることを大切にし、③シニアの心を支える」を運営の基本とし、スタッフ会議の際に唱和している。  
 ◇教育・指導・助言を行う法人の教育部門があり、新人を始め現任者の研修を一括して行い研修結果は文書化している。また、事業所内では、法人の研修資料を用いて勉強会を開き、職員の資質向上に取り組んでいる。  
 ◇事業所内の敷地には、植木や草花に加え菜園があり、手軽で安全に散歩や野菜の栽培を楽しむことができる。  
 ◇市の福祉フェスティバルに、利用者が毎年フェルト製のリースや紙で作った造形作品を出品している。また、フラダンス、紙芝居、音楽などのボランティアが訪問するなど、地域との交流が盛んである。  
 ≪事業所が工夫している点≫  
 ◇運営推進会議では、地域の代表や行政の職員が参加して、事業所の介護への取り組みにつき詳細にわたる意見交換をしている。  
 ◇昨年10月、地域と防災協定を締結し、災害時要援護者（高齢弱者）対策の一步を踏み出した。  
 ◇毎月、各県の郷土料理を計画し、昼食として提供して食の楽しみを支援している。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	街角の家秦野
ユニット名	—

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

街角の家秦野

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入社員には、入社時に経営理念と「いづくしみの思草」を説明し、毎朝のミーティングや勉強会で、また介護の実施を通して、理念の実現に取り組んでいます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域社会との調和の中でシニアサービスを創造し、自由で活性化された高齢者社会を目指す」の理念を、玄関や事務室に掲示している。</li> <li>・地域の理解を得て交流を深め、利用者が地域の一員として、楽しんで行事に参加するように支援している。</li> </ul>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベント企画のボランティアに入っただき、コンサート、クリスマス会などの交流を年間を通して利用者に楽しませています。又市主催の福祉フェスティバルに参加して、地域行事に参加している。また普段より地域の方にお会いしたら、挨拶を行うようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会に加入している。市の福祉フェスティバルに、野菜をテーマにしたフェルトのリース、紙で作った造形作品などを利用者を出品した。</li> <li>・ボランティアを受け入れ、フラダンスや紙芝居、ピアノコンサートなどを楽しんでいる。</li> </ul>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に根付くように運営推進会議の参加者にご協力を得て利用者様に対し安否確認、話し合いの場を持ち役立つ事を考えている。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成22年12月日に開催。現在の活動を報告・意見交換を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2か月ごとに開催し、自治会長、民生委員、地域包括支援センターや市役所の職員、家族代表、事業所関係者をメンバーとしている。</li> <li>・介護方法、地域との連携方法（例：地域や事業所の行事の紹介）など、活発に意見を交換している。</li> </ul>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスの疑問等を市の担当者に確認の為何うようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の高齢介護課の職員と日常的に連携がとれている。運営推進会議に市職員が出席しており、意見を交換し、介護情報の把握をしている。</li> </ul>	

街角の家秦野

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命、身体の保護上、緊急やむを得ない場合を除き行っていない。また拘束になる場合ご家族様・身体拘束委員会に相談を行う。今現在身体拘束の実施はありません。	・法人にある「身体拘束廃止委員会」が、事業所に助言・指導をしている。 ・職員は毎月開催する事業所内の勉強会で、事例検討(ベッドの高さ、柵の設け方など)をし、また、外部研修を受け、実務に反映している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の入浴時、入床時、排泄介助時等常にアザなどの確認、発言内容や精神状態のチェックなど、細かく注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う前に見学及び体験をして頂き、サービスを利用するに当たり、利用者様の気持ちや希望、不安な事などを十分に話し合える時間をとっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様への声掛けや会話を通して、その方の気持ちや思いを聞き取るようにしている。また、ご家族様とも連絡を密にし、利用者様の気持ちの代弁や、ご家族様の思い等を聞き運営に役立てている。	・家族が来訪した際に意見や要望(例、食事内容、栄養の取り方など)を聞き、職員の連絡帳、個人記録に記載して、スタッフ会議で検討している。健康維持について事業所で判断できない内容の場合は医師に相談してアドバイスを受けている。	

街角の家秦野

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングや、スタッフ会議時に意見交換の場としている。	・管理者は、スタッフ会議や朝の申し送りのときのミーティング、日常会話を通じて、職員の希望（休暇・勤務時間など）や提案（介護方法、行事内容など）を聞いて実行できるものから運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件と就業規則は整備している。また、全クルー対象とした健康診断を実施している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人・リーダー・管理者の勉強会を行っている。社外の勉強会にはクルーが順番に受けられる機会を増やしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	介護支援専門員協会へケアマネージャーが参加し、交流を持っている。今後は、ケアマネージャー以外のクルーも同業者との交流を持ちたいと思っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方に合った対応の仕方の工夫し、お互いの信頼関係を作る事を心掛けている。笑顔で接する、優しい声掛け、傾聴する姿勢など、その方が安心して、言っただけの場が提供出来るようにしている。		

街角の家秦野

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体験利用を提案し、事業所の雰囲気やサービス内容の理解、具体的な利用方法について説明し、初期の不安や疑問の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始初期での関係作りを目的とした体験利用時に本当にこのサービスが必要か、他のサービスでないかを検討する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ただ食事や入浴、レクリエーションを提案するだけでなく、利用者様に昔の事や体験された事を聞く機会を多く持ち、家族のような時間を過ごしていきたい。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅での様子と、ここでの様子が必ずしも同じではなく、その事を理解した上で、よく家族の気持ちを聞くように努力している。また、不安や心配な事があれば、何か支援できないか提案し、良い関係が作られるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な在宅への帰宅等を支援していきたい。また、馴染みの方に来所いただき、利用者様の自室等での有意義な時間が持っていただけるよう支援していきたい。	・2～3か月に一度、知人が尋ねてくる利用者もいるが、ほとんどは家族の訪問である。訪問者には、居室やリビングで利用者と共に過ごしてもらおうよう支援している。 ・今のところ、馴染みの場所に行きたいとの希望はない。	

街角の家秦野

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれのペースで過ごされるも、お互いが必要な人になってきた。職員が間に入って今後も支援していきたい。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退去1名、医療処置が必要の為保健施設等に移られた方2名。契約終了後に相談に応じたケースなし。今後必要時には、速やかに対応していきたい。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その方の置かれている状況、望む事は何かという事を会話の中からつかむように心掛けている。スタッフがその様な意識で情報がキャッチできるように努めている。	・家族の意見、日常の利用者との会話、本人の表情やしぐさなどから本人の思いや意向を把握している。 ・申し送り、連絡ノートなどで本人の思いを職員間で共有するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生まれ育った所、家族、結婚してから現在に至るまでの生活状況等をお聞きしてその方をよく知るよう努めている。ご本人より確認が取れない時は、ご家族様に確認し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの把握と合わせ、日々変わってくる状態（出来る事・出来なくなっている事）を把握し、どのような支援が必要か話し合っている。		

街角の家秦野

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週火曜日に、話し合いを持っている。ご家族様には、新たな課題を都度話、意見を求めたり、スタッフより提案して、計画に反映させています。	・毎週利用者1～2人を対象に、当日担当の職員が参加してケアカンファレンスを開催し介護計画を作成している。 ・6か月ごとに介護計画を見直し、家族の承認を得ている。途中で変化を生じた場合は家族に電話連絡をして計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	シニア様の変化を業務日誌・個別記録・居宅介護支援経過記録に記入し、日々の業務、介護計画の見直し時に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況、ニーズにあった対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	非常時・緊急時、近隣の人に助けをいただかなければならない時もある為、協定を結んでいます。また、毎日が、安全・安心に過ごせるよう支援を今後も行っていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人・家族と話し合い、往診医3名いらっしゃるの、適切な医師の紹介。また、かかりつけ医での対応も行っている。状況変化時は、すぐ家族・かかりつけ医に連絡・相談を行っている。	・利用者によっては、かかりつけ医への受診の継続を支援している。 ・協力医療機関は、内科の湘風クリニックが隔週往診し、精神科の丹沢病院が必要に応じ、また、厚誠会歯科秦野が毎週往診しており、家族の了解のもとで受診している。	

街角の家秦野

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化が見られた時は、かかり医へ相談・受診を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院に伺い、担当看護師等に早期退院を目標に状況確認を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在利用者様の重度化は無いが、今後変化が考えられる為、日頃より様子観察を怠らず、変化を見逃さない。常に家族・関係医療機関に報告・指示をいただき、本人・ご家族様・医療関係者・スタッフで共有していきたい。	・法人の「看取りに関する指針」を基に、重度化した場合は、医師、家族と緊密に連携をしている。これまでに看取りの事例もある。 ・職員は、本社のマネジャー（看護師）から救急対応などについて助言・指導を得ている。	法人の「看取りに関する方針」に基づいて、職員の勉強会を開催し、職員の役割、救急対応、終末期のケアについて理解を深めることが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを使用し、定期的に各自が、目を通すようにしている。ひやりハットを日常活動に取り入れ、万が一事故発生時隠蔽しないで再発防止に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理意識を高める為、避難・通報訓練の実施と室内の防火設備の点検をする。また、近隣の自治会との協定を結んでいる。	・昨年3月と10月に利用者が参加して避難訓練を行い、10月には、消防署員が訓練に立会い、また、地域と防災協定を結んだ。 ・居室と廊下にスプリンクラー、煙・温度検知器を設備し、1階の事務所に消防署直結の通報設備がある。 ・食料、水は一週間分備蓄している。	

街角の家秦野

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者・家族への挨拶・言葉掛けは、優しく思いやりを持ってするようにしている。個人情報に関しては、利用者様が居る所で話さない、スタッフ以外の方に話さないなどを徹底しています。	・プライバシーポリシーを玄関と居間兼事務室に掲げて職員に周知し、個人情報の保管場所には鍵をかけている。 ・サービス方針「いつくしみの仕草」に基づくチェック項目があり、管理者が利用者に対する不適切な職員の言動を注意したり、接遇講師の指導を受けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自分の考えや思いをスタッフと話せるような信頼関係を築けるようにしている。どんな場合でも決定権は利用者様にある。それをどう支援していくかを、職員で話し合って支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の日常生活リズムに合わせて、個別対応している。お部屋や団楽室でテレビを観るなどその方のペースに合わせた生活（暮らし）を送っていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・ご家族様の希望に沿ったおしゃれが出来るよう支援しています。女性利用者様には、時々お化粧品をする等配慮をしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感や行事食等提供し、楽しんでいただけている。利用者様の好みなどを知るように心掛けている。個別対応で嫌いな食材の時はあらかじめメニューを変えて対応している。台所まで、少しずつ片付けを手伝っていただけるようになってきている。今後も一緒に出来るよう支援していきたい。	・利用者に下膳を少しずつ手伝ってもらえるようになってきた。 ・利用者の希望でメニュー変更ができる。特別食として、毎月1日赤飯、10日混ぜ飯、15日郷土料理、第3火曜日薬膳スープがあり、誕生会や月1回施設の畑で取れた野菜で料理を作る日もある。	

街角の家秦野

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況は必ず確認している。毎食のメニューは栄養士により献立が立てられている。糖尿病食等は工夫して提供している。食事量低下時は、医師に相談し栄養補給剤を処方いただき、定期的に補給している。水分も、お茶やポカリ、好みのジュース等をお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの充実により、口から食べる事、美味しく食べる事が自立とQOLの向上につながるため、歯ブラシを用いた口腔ケア、義歯の手入れや、舌の汚れのケアをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄には個人のパターンがあるので、職員間で情報を共有し、本人の体調を考慮し、トイレ誘導を行っている。	・現状、トイレの自立とオムツ使用の割合は6：1である。 ・個人記録・排泄記録表により、リズムを知りトイレに誘導している。 ・昼間はリハビリパンツ、夜間のみオムツにし、徐々にリハビリパンツ使用を多くしてオムツが取れた例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は繊維の多い野菜や寒天を多く摂取していただいたり、水分を多く提供している。毎日の体操に参加していただく。場合によっては、医師に相談し、下剤にて調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調に応じ一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんでいただけるよう支援しています。	・希望により毎日でも可能だが、入浴チェック表により最低週2回にしている。バイタル項目をチェックし、10～11時と14～16時の間に入浴している。 ・同性介助を心がけている。 ・入浴を好まない利用者には時間を変えて声かけして対応している。	

街角の家秦野

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を考慮し、一人ひとりの生活習慣（リズム）に合わせ気持ちよく休息をしていただけるよう支援している。休んでいただく前は、排泄誘導を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋にて薬の作用について確認できるように情報提供及び閲覧できるようにしている。内服の変更時は、都度スタッフに情報提供を行っている。内服時は、利用者様の前で確認を行い、内服していただく。内服できたか確認も行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の楽しみ、喜びを日々の活動に取り入れるようにしている。音楽コンサートや行事への参加、買出し等を今後も支援していきたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見・遠足、施設外への散歩、買出しなどを少しずつ支援している。今後も支援していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週2回児童遊園、運動公園、戸川公園へ車椅子の利用者も一緒に散歩している。</li> <li>・利用者の希望で、フラワーランドへの買物に職員が同行で出かけている。</li> <li>・江ノ島水族館へ行き、家族宛での収支報告書に利用者の写真を同封した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出支援のボランティアを探し育成することも含めて、日常の散歩や外気浴の回数を増やすことが期待されます。</li> </ul>
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額所持している利用者様もいるが、自己管理が不可能なため、ご家族様へ相談し、事務所にて保管を行っている。必要時には、使用できるよう支援をしていきたい。		

街角の家秦野

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って電話をしたり、手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル上には、庭に咲いている季節の花を飾ったり、創作した作品を展示をしている。また、テレビ前にはソファを用意し利用者様にくつろいでいただいている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関ホールには、職員が作成したお雛様を展示し、1F・3Fの食堂には、庭の花や塗り絵・切絵を飾っている。</li> <li>・日当たりの良い3Fの居間兼事務室にはソファやTVを置いている。</li> <li>・エアコンは25℃に設定し、冬季は、加湿器を設置している。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに、食堂や、団欒室での自身の安心して過ごせる場所があったり、一緒に過ごされたり、思い思いの過ごし方をいただいている。また、自室で過ごされる方もいらっしゃるため、スタッフが空間の邪魔にならないよう配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビ、テーブル、タンスを設置。それぞれに使い慣れたものを持参され、使用されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エアコン、クローゼットは事業所の備え付け品であるが、壁紙の種類は入居前に家族と利用者の希望で決め、カーテンやベッド・TV・仏壇などを持込んでいる。</li> <li>・家族の写真、家族や本人が作った作品などを飾り、くつろげる居室にしている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、居室、トイレ内、階段に手摺りを取り付けて危険防止に努めている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

街角の家 秦野

作成日

平成23年3月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	48	利用者には、少しずつ手伝いをして頂けるようになったが、まだ全員の役割ができていない。	お一人おひとりの役割を見つけていく。	趣味、得意分野を本人・ご家族にお聞きして、一つひとつ支援していく。	12か月
2	49	外出の企画をしても、体調不良などでなかなか実施できていない。	ご家族も参加できる外出を企画する。	季節の花見などを計画し、毎月ご家族に送っている「お便り」でお誘いの声かけをする。	12か月
3					
4					
5					